



FASID 奨学金プログラム 博士の学位取得を支援

FASID Scholarship Program: Assistance for Higher Education

国際開発分野に貢献する人材の育成は創設以来、一般財団法人国際開発機構 (FASID) が最も注力する事業の一つで、研修・セミナー、優れた研究の顕彰、奨学金提供などさまざまな能力開発事業を通じ、質の高いグローバル人材育成を目指しています。本稿では、現在募集中の「FASID奨学金プログラム」についてご紹介します。

本プログラムは給付型奨学金であり、2012年、旧法人 (国際開発高等教育機構) から現組織への移行に伴い策定した公益目的支出計画に基づき同年開始しました。国内外の国際開発関連分野の大学院で学ぶ日本人材に対する博士の学位取得支援を通じた人材育成を目的としています。



これまでの実績と2022年度募集

本プログラムは公募制・給付型 (総額200万円・3年間、いずれも上限) で、今年度選考は第11期にあたります。過去10年間で16名を奨学生として採用し、その半数が博士号を取得、OB/OGは国連・国際機関、実施機関、大学教授、NGO役員など、国内外で活躍中。近年採用した奨学生は国内外で修学中です。奨学金提供機会の拡大にあたっては、まず応募の門戸を広げるべく制度を設計しています。受給期間中の就業可能、1年間 (学年暦) を超える支援は延長申請制度があります。

年間新規採用3名ほどの事業規模ですが、国際開発分野の高等教育人材の育成・振興に今後も役割を果たして参ります。

2022年度募集の詳細は、FASID webサイト・募集要項をご参照下さい。応募受付期限: 2023年1月20日 (金) 正午

Message (学位取得 OB) /



博士研究と開発実務の結びつき

【FASID奨学金プログラム6期生 2018~2020年度】
東京大学医学系研究科より博士号取得 (保健学・2021年)
専門は国際保健。国際機関にて水・衛生分野の開発・緊急支援に従事。
現職 UNICEF Kenya Country Office, WASH Officer
東京大学大学院医学系研究科 客員研究員

小杉 穂高さん

私は大学院で開発学を学んだ後、JICA 海外協力隊としてケニアのシアヤ県保健事務所で活動しました。この地域は HIV が深刻な問題であるにもかかわらず、多くが性交渉の際にコンドームを利用しないことから感染が拡大していました。この現状に問題意識を持ち、帰国後は東京大学大学院に進学し、ケニアとウガンダをフィールドに本課題に関する研究に取り組みました。

博士課程の進学と同時に、国連ボランティアとして 国連児童基金

(UNICEF) ウガンダへ赴任し、難民キャンプへの水供給、エボラ感染拡大防止、トイレ普及などの水と衛生分野の活動に従事しました。その後、ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー (JPO) として、UNICEF ケニアにて引き続き同分野の業務に従事しています。これらの実務では、大学院で学んだ統計や国際保健の知識をインパクト評価や政策決定者との議論に生かす機会が多々ある一方、受益者との信頼関係など、保健活動を成功させるための科学的エビデンス以外の要因についても身をもって学ぶことができています。

私は博士課程進学直後から海外を拠点に社会人学生として研究を始めたため、研究は主に平日夜間と休日に実施しました。フルタイムでの実務と研究の両立は簡単なものではないですが、実務と研究の双方で多くの学びがあり、国際開発人材育成の観点からも有意義なものです。社会人学生を対象にした奨学金プログラムは少ないと思うので、FASID 奨学金へ関心のある方はぜひ応募を検討してみてください。

Message (留学中) /



貧困をなくすために 土地 Land Tenure を研究する

【FASID奨学金プログラム9期生 2021年度~】
英国ケンブリッジ大学博士課程 経済史専攻
専門は途上国経済開発・経済史学および帝国グローバリゼーション学
国際経済史学会学生代表

グスタフソン 栄さん

「どうして世界から絶対的貧困がなくなるのか? なぜ成果は遅々としているのか。」国際開発にはさまざまな政策や考え方がありますが、絶対的貧困を根底から解消するには経済開発が重要で、その経済開発を促すには土地 land tenure が鍵だという考えに至り博士研究に従事しています。

日本の大学院で都市開発学を学んだ後、国内外の都市開発プロジェクトや国際機関の業務に携わるなか、アフリカの土地は欧米で使用されているような土地権ではなく、植民地政策の影響を大きく受けた慣習法に基づいて管理されていることを知りました。アフリカ社会と密接に関わりながら積層されてきた土地慣習法を理解し、途上国の人々の幸せに直結する開発政策に寄与できるよう、植民地研究とアフリカ開発学が進んでいる英国の博士課程を選びました。地道な学術研究が果たす表層には現れない事実を突き止め、解決策につなげるという意義と必要性を実感しています。

海外の博士課程も対象の給付型奨学支援機関は少なく、FASID は国際開発に携わる研究者の間では誰もが知る存在でした。きっと無理だろうと諦めずに思い切って奨学生に応募したことで、今の私の博士研究が成り立っています。

FASID 一般財団法人国際開発機構 FASID奨学金プログラム事務局
〒106-0041 東京都港区麻布台2-4-5 メソニック39MTビル6階 Tel: 03-6809-1996
email: gakui@fasid.or.jp https://www.fasid.or.jp/scholarship/

*FASID奨学生の研究テーマ、エッセイなどをホームページでも紹介しています。ご覧ください。